（別紙様式4）

令和8年10月30日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
大原簿記ビジネス公務員専門学校京都校	平成13年11月16日	内田　康則	〒　600－8413 （住所）　京都市下京区烏丸通仏光寺下る大政所町672番地1号 （電話）　075－344－1341
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人大原学園	昭和54年4月1日	中本　毎彦	〒　101－0065 （住所）　東京都千代田区西神田一丁目1番3号 （電話）　03-6261-7717

分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
商業実務	商業実務専門課程	ビジネス学科	令和 3(2021)年度	－	平成27(2015)年度

学科又は専攻科の目的	簿記・会計、税務、情報リテラシ、マーケティングおよびこれらに関連するビジネス分野に関する教育を行うとともに、人格の陶冶を図り、豊かな人間性と専門的知識・技能を備えた、社会に貢献できる有為な産業人を育成することを目的とする。
学科又は専攻科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	簿記検定、情報リテラシ、パソコン実習、ファイナンシャル・プランニング（FP）、マーケティング、一般教養およびビジネスマナーを中心とした教育を行います。専門知識と実践的な技能の習得を通じて、社会や産業界で活躍できる職業人としての能力と、豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成します。

修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	62　単位	372 単位	129 単位	16 単位	0 単位	0 単位

学生総定員	学生実員(A)	留学生数(学生実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率
80 人	121 人	82 人	68 %	2 %

就職等の状況

■卒業者数 ©	53	人
■就職希望者数 (D)	47	人
■就職者数 (E)	47	人
■地元就職者数 (F)	17	人
■就職率 (E/D)	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	36	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	89	%
■進学者数	3	人

■その他

留学生帰国1名、在留ミャンマー人への緊急避難措置2名

（令和　　7 年度卒業者に関する令和８年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

阪神電気鉄道㈱、ニデックドライブテクノロジー㈱、山崎製パン㈱、ケンコーマヨネーズ㈱、㈱ドッドウエルビー・エム・エス、㈱ヤマダホールディングス、㈱ハウステック、ケイアイスター不動産㈱、㈱クスリのアオキ 等

当該学科又は専攻科のホームページURL	https://www.o-hara.ac.jp/senmon/school/kyoto/

企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）

総単位数		62 単位
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	1 単位
	うち企業等と連携した演習の単位数	19 単位
	うち必修単位数	0 単位
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	0 単位
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位
	（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	0 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	2 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	2 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		4 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	0 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

○教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回　令和7年8月7日　16:30～17:30/第2回　令和7年11月13日　16:30～17:30
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
郡　雄一	青山商事株式会社	令和8年4月1日～令和10年3月31日（2年）	③
柴　隆利	京都商工会議所	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	①
内田　康則	大原簿記ビジネス公務員専門学校京都校	－	ー
今西　智也	大原簿記ビジネス公務員専門学校京都校	－	ー
西島　貴之	大原簿記ビジネス公務員専門学校京都校	－	ー

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科目概要	連　携　企　業　等
卒業研究・発表	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	実店舗を題材にして、課題に対する改善案を提案し発表する	イオンリテール株式会社
ホテル実習Ⅰ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	実際に会場にて現場の仕事を学ぶ	株式会社西武・プリンスホテルズワー
ホテル実習Ⅱ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	実際に会場にて現場の仕事を学ぶ	株式会社西武・プリンスホテルズワー
職業実務Ⅱ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	京都行政書士会から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に官庁研究を行う	京都行政書士会
職業実務Ⅲ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	公官庁（国家省庁など）から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に官庁研究を行う	国税局

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）認定専門課程等の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門的かつ実践的な知識・技能を有し、即戦力となる人材を育成するためには、常に教員一人ひとりが実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身に付けなければならない。
「大原学園教職員研修規定」の目的に定めるとおり、教職員が専攻分野に関する知識・技能・企画力・判断力等を高めるための環境を整備し、所属長の指示又は本人の意思により、研修等を公平に受講する機会を与えるものとする。
①教育課程編成委員会に参加する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修
②大学教授等専門分野に特化した講師を招いた研修会の実施
③学内に設置される付帯教育講座を利用しての自己啓発
④京都府(関連団体等含む)主催の実践的な知識・指導スキル研修

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	税務調査で導入されるAI判定の現状と概要	連携企業等：	近畿税理士会 東淀川副支部長　税理士法人エム・アンド・アイ
期間：	令和7年10月11日（土）	対象：	当学科専任教員
内容	本年度より税務調査で導入されるAI判定の現状と概要についての理解を深める		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	令和7年度教員研修会	連携企業等：	一般社団法人　京都府専修学校各種学校協会
期間：	令和7年9月13日（土）	対象：	当学科専任教員
内容	退学者を出さない基盤づくりのノウハウとして、理論的根拠と実践例を学ぶ 低学力者の実態把握と基礎学力向上に向けたアプローチ方法の習得する		

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	教員向け知識力向上研修	連携企業等：	税理士法人エム・アンド・アイ
期間：	2026年11月14日（土）または21日（土）	対象：	当学科専任教員
内容	令和8年度税制改正等に伴う影響について		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	令和8年度教員研修会	連携企業等：	一般社団法人　京都府専修学校各種学校協会
期間：	令和8年9月5日（土）	対象：	当学科専任教員
内容	なぜ今、専門学校教育に生成AIが必要なのか、生成AIを有効活用した授業・学生指導のベストプラクティス		

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

〇学校関係者評価

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
(1)教育理念・目的・目標	
1 教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
(2)学校運営	
1 教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2 教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3 単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針(資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む)を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4 学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得(資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。)についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
(3)学生の受入れ、学生支援	
1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2 自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3 多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
4 学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。 ※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている

(4)教育実施組織・教員	
1　教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等(教員の採用基準等)を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
(5)教育環境	
1　教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けていない
2　安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
(6)教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1　中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2　学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)。	同内容評価項目を設けている
3　学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4　社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている

(3)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和8年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
徳元　利貴	株式会社Vaton	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	卒業生
土肥　豊	一日一笑税理士事務所	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	卒業生
森本　貴之	稲荷山武田病院	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	企業等委員
竹本　均	株式会社サップス	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
郡　雄一	青山商事株式会社	令和8年4月1日～令和10年3月31日(2年)	企業等委員
久保田　征鑑	京都府行政書士会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
吉本　美枝	京都府歯科衛生士会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/		
公表時期	令和8年11月10日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)情報提供

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/		
公表時期	令和8年11月10日		

授業科目等の概要

	（商業実務専門課程 ビジネス学科）															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			一般教養Ⅰ	ビジネスで一般的に使用される熟語、四字熟語、慣用句などを学ぶ。	1前	1		○		○		○		
2	○			一般教養Ⅱ	ビジネスで一般的に使用される熟語、四字熟語、慣用句などを学ぶ	2前	1		○		○		○		
3		○		経営学概論	本授業の目的は、経営学を学ぶ目的や学問体系を理解すべく、経営学の枠組み、企業形態、経営組織等について概要を理解することにある。そして、戦略論、マーケティング論等の主要テーマについて基本となる知識を得ることで、経営学分野専門科目の学修への橋渡しとすることを目的とする。	1前	1	○	△		○		○		
4			○	マーケティング入門	本授業の目的は、グローバル化や AIの活用等、市場環境が急速に変化するとともに、消費者のニーズが多様化している昨今の現状にあって、マーケティングの基礎理論と体系を学び、その理論概念を用いて、周囲にある商品やサービスの事例に当てはめていくことにある。	1前	1	○	△		○		○		
5			○	国際ビジネス入門	本授業の目的は、日本企業やグローバル企業における国際ビジネスに関する歴史等を概観した上で、 大手企業だけでなく、中小企業間でも国際化が進展している昨今の状況を踏まえ、事業執行にあたっての主な職能、日本企業において重要進出拠点となる国や地域のビジネス環境等を学ぶことにある。	1前	1	○	△		○		○		
6			○	ファイナンス入門	本授業の目的は、ファイナンスの対象領域である金融取引や証券市場の仕組み、金融商品の価格、将来価値と現在価値の考え方、さらには債券と株式の基礎的分析手法等を学ぶことにある。	1前	1	○	△		○		○		
7			○	経済原論	本授業の目的は、ミクロ経済学並びにマクロ経済学の基礎と理論を学び、社会を取り巻く環境や社会現象の中で、経済学がどのように生かされているのかを考えていくことにある 。また、本科目の内容は、経済学や経営学の応用分野を学ぶ上で、修得しておくことが前提となる。	1前	1	○	△		○		○		
8			○	簿記原理	本授業の目的は、企業活動を記録するための手法である簿記の基礎を学ぶことにある 。そして、簿記を理解することによって、企業で経理事務に必要な会計知識だけではなく、財務諸表を読む力や基本的な経営管理のスキル等を修得する。	1前	1		○		○		○		

9			○	キャリアデザインⅠ	して、簿記を理解することによって、企業で経理事務に必要な会計知識だけではなく、財務	1通	1	○	△		○		○			
10			○	キャリアデザインⅡ	諸表を読む力や基本的な経営管理のスキル等を修得する。	1後	1	○	△		○		○			
11			○	キャリアデザインⅢ	会社などの組織を理解し、最低限身につけなければならないスキルの学習	1後	1	○	△		○		○			
12			○	ビジネス教養Ⅰ	企業内で多岐にわたり使用される電卓のスピード、正確性を高める実技演習を行う。	1通	1	△	○		○		○			
13			○	ビジネス教養Ⅱ	企業内で多岐にわたり使用される電卓のスピード、正確性を高める実技演習を行う。	2通	1		○		○		○			
14			○	ビジネスマナー	現代社会における主要な時事の基本用語を理解し、自分の考えや意見を持つための学習	2通	2	○	△		○		○			
15			○	パソコン実習Ⅰ	自己分析、自己PRの作成を通じての対人コミュニケーション能力を身に着ける	2通	1	△	○		○		○			
16			○	パソコン実習Ⅱ	Word、Excelを操作するための基礎的な知識を身につける実習	2通	1	△	○		○		○			
17			○	パソコン実習Ⅲ	Word、Excelを操作し簡単な文書の作成、表やグラフを用いてレイアウトや見栄えの調節を行うためのスキルを身につける実習	2通	1		○		○		○			
18			○	簿記入門Ⅰ	株式会社における複式簿記の基本原理を学ぶ	1前	1	○			○		○			
19			○	簿記初級Ⅰ	簿記の基本原理および企業の日常業務における実践的な簿記の知識を習得する	1前	2	○			○		○			
20			○	簿記初級Ⅱ	簿記の基本原理と合わせて企業の日常業務及び月次の集計業務における実践的な簿記の知識を習得する	1前	1		○		○		○			
21			○	原価計算初級Ⅰ	簿記の学習の有無を問わず原価計算の基本を学ぶ	1後	2	○			○		○			
22			○	原価計算初級Ⅱ	原価計算の基本原理および企業の日常業務における実践的な原価計算の知識を習得する	1後	1		○		○		○			
23			○	2級商業簿記基礎Ⅰ	基本的な財務報告書類の作成方法・株式会社会計の基礎を学ぶ	1前	68	○			○		○			
24			○	2級工業簿記基礎Ⅰ	工企業を前提とする会計処理の基礎を学ぶ	1前	2	○			○		○			

25			○	2級簿記総合Ⅰ	商企業および工企業の会計処理を問題演習を通じて学び、本支店会計、連結会計、原価計算の基礎も学ぶ	1前	4		○		○		○			
26			○	1級会計学速習基礎	会計基準および適用指針など実務に直結する会計の基礎について短期間で学習し、問題演習は各自で行うことを原則とする	1前	3	○			○		○			
27			○	1級原価計算速習基礎	伝統的な工業簿記および原価計算の基礎および経営戦略の基本的な内容について短期間で学習し、問題演習は各自で行うことを原則とする	1前	2	○			○		○			
28			○	1級簿記速習総合	大企業を前提とした会計制度を学ぶ	1前	4		○		○		○			
29			○	3級商業簿記基礎	株式会社における複式簿記の基本原理、簿記の基本原理を学ぶ	1前	3	○			○		○			
30			○	3級簿記総合	基礎レベルではやや難しい会計処理を問題演習を通じて学ぶ	1前	4		○		○		○			
31			○	1級会計学入門Ⅰ	資産負債中心観を主体とした理論体系を学び現行基準との整合性、課題を学ぶ	1前	3	○			○		○			

32			○	1級原価計算入門Ⅰ	資産負債中心観を主体とした理論体系を学び現行基準との整合性、課題を学ぶ	1前	3	○			○		○		
33			○	1級簿記速習演習	資産負債中心観を主体とした理論体系を学び現行基準との整合性、課題を学ぶ	1前	3		○		○		○		
34			○	全経簿記上級総合Ⅰ	資産負債中心観を主体とした理論体系を学び現行基準との整合性、課題を学ぶ	1前	4	○	△		○		○		
35			○	1級会計学基礎Ⅰ	資産負債中心観を主体とした理論体系を学び現行基準との整合性、課題を学ぶ	1前	1	○	△		○		○		
36			○	1級原価計算基礎Ⅰ	資産負債中心観を主体とした理論体系を学び現行基準との整合性、課題を学ぶ	1前	1	○	△		○		○		
37			○	1級会計学総合Ⅰ	会計基準のみならず適用指針など実務に直結する会計について、より詳細に学ぶ	1後	3		○		○		○		
38			○	1級原価計算総合Ⅰ	会計基準のみならず適用指針など実務に直結する会計について、より詳細に学ぶ	1後	3		○		○		○		
39			○	2級商業簿記基礎Ⅱ	資産負債中心観を主体とした理論体系を学び現行基準との整合性、課題を学ぶ	1前	3	○			○		○		
40			○	2級工業簿記基礎Ⅱ	資産負債中心観を主体とした理論体系を学び現行基準との整合性、課題を学ぶ	1前	3	○			○		○		
41			○	2級簿記総合Ⅱ	会計基準のみならず適用指針など実務に直結する会計について、より詳細に学ぶ	1後	3		○		○		○		
42			○	2級簿記総合Ⅲ	会計基準のみならず適用指針など実務に直結する会計について、より詳細に学ぶ	1後	3		○		○		○		
43			○	会計学入門Ⅰ	簿記一巡・商品の流れの初歩的な知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	1前	2	○	△		○		○		
44			○	会計学入門Ⅱ	会計学、会計基準の初歩的な概要を学ぶ	1前	2	○	△		○		○		
45			○	簿記論入門Ⅰ	簿記一巡・商品の流れの入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	1前	1	○			○		○		
46			○	簿記論入門Ⅱ	固定資産・有価証券の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	1後	3	○			○		○		
47			○	簿記論基礎Ⅰ	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	1後	4	○			○		○		

48			○	簿記論基礎Ⅱ	特殊商品売買・金融商品の入門知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する。	1後	4	○			○		○			
49			○	財務諸表論入門Ⅰ	会計学の概要入門を学ぶ	1前	1	○	△		○		○			
50			○	財務諸表論入門Ⅱ	会計基準の入門概要を学ぶ	1後	3	○			○		○			
51			○	財務諸表論基礎Ⅰ	金融商品取引法の概要入門を学ぶ	1後	4	○			○		○			
52			○	財務諸表論基礎Ⅱ	会計学の入門・基礎を学ぶ	1後	4	○	△		○		○			
53			○	会計士キャリアデザインⅠ	職種や業種について基本的学習を行いつつ、会計士試験の理解を深め試験勉強と実務	1通	1	○			○		○			
54			○	監査論入門Ⅰ	におけるつながりを理解する	1前	1	○			○		○			
55			○	監査論入門Ⅱ	監査手続きに関して、財務諸表監査に対する基礎的な枠組みを学ぶ	1後	1	○	△		○		○			
56			○	監査論入門Ⅲ	監査手続きに関して、監査実施論に対する基礎的な枠組みを学ぶ	1後	1	○	△		○		○			
57			○	管理会計論入門Ⅰ	監査手続きに関して、監査報告論に対する基礎的な枠組みを学ぶ	1前	1	○			○		○			
58			○	管理会計論入門Ⅱ	管理会計の概要を知り、基礎を学ぶ	1前	2	○	△		○		○			
59			○	管理会計論入門Ⅲ	管理会計の概要を知り、原価計算制度の基礎知識を学ぶ	1後	2	○	△		○		○			
60			○	管理会計論入門演習Ⅰ	択一式の問題演習を通じながら、計算力の向上や原価計算基準を学ぶ	1後	1	△	○		○		○			
61			○	企業法入門Ⅰ	問題演習を行うことで、原価計算制度の基礎知識を定着させることを図る	1前	2	○			○		○			
62			○	企業法入門Ⅱ	会社法の全体像を俯瞰し、会社の設立を中心とした基礎的な概念を学ぶ	1後	1	○	△		○		○			
63			○	企業法入門Ⅲ	会社法の全体像を俯瞰し、株式を中心とした基礎的な概念を学ぶ	1後	2	○	△		○		○			

64			○	財務会計論 財表入門Ⅰ	会社法の全体像を俯瞰し、株式会社の機関設計や資金調達を中心とした基礎的な概念を学ぶ	1 後	1	○			○		○		
65			○	財務会計論 財表入門Ⅱ	財務会計の基礎概念を体系的に学ぶ	1 後	1	○	△		○		○		
66			○	財務会計論 簿記入門Ⅰ	概要フレームワーク及び資産評価の基礎概念を学ぶ	1 前	1	○	△		○		○		
67			○	財務会計論 簿記入門Ⅱ	商品売買及び棚卸資産に関する初歩的な会計処理を学ぶ	1 前	2	○	△		○		○		
68			○	財務会計論 簿記入門Ⅲ	現金預金及び金銭債権に関する初歩的な知識を学ぶ	1 後	1		○		○		○		
69			○	財務会計論 簿記入門Ⅳ	基礎知識の定着度確認を目的とする演習	1 後	3	○	△		○		○		
70			○	財務会計論 簿記入門演習Ⅰ	有価証券及び有形固定資産に関する初歩的な会計処理を学ぶ	1 後	1		○		○		○		
71			○	短答式対策 入門総合Ⅰ	数学的な基礎知識を基に、計算問題の解答を行う	1 後	1	△	○		○		○		
72			○	租税法入門 Ⅰ	模擬試験形式による効果測定	1 後	1	○			○		○		
73			○	ホテル実務 Ⅰ	鉄道業界知識	1 前	2	○			○		○		
74			○	ホテル実務 Ⅱ	Ｈ検定Ｂ２級対策	1 後	2	○			○		○		
75			○	ホテル接客 Ⅰ	Ｈ検定Ｂ２級対策	1 前	2	○			○		○		
76			○	ホテル実習 Ⅰ	表現力を上げるための講義・実技指導を行い、コミュニケーション能力を養う	1 前	1			○		○	○		
77			○	ホテル実習 Ⅱ	２学期インターン	1 前	2			○		○	○		
78			○	ホテル実習 Ⅲ	学内にて実技、もしくは外部ホテルで働き、ホテル業務の理解やお客様への接客方法、スタッフとのコミュニケーションなど実践的な力を身につける	1 後	2			○		○	○		
79			○	ホテル実習 Ⅳ	学内にて実技、もしくは外部ホテルで働き、ホテル業務の理解やお客様への接客方法、スタッフとのコミュニケーションなど実践的な力を身につける	1 後	2			○		○	○		

80			○	ホテル業界研究	２学期インターン	1後	1	○			○		○			
81			○	言語知識（英会話）Ⅰ	外部企業による講演	1前	2		○		○			○	○	
82			○	言語知識（英会話）Ⅱ	ネイティブスピーカーとの英会話レッスンで全員が発話しつつ授業を進めていく。	1後	2		○		○			○	○	
83			○	英検総合対策Ⅰ	ネイティブスピーカーとの英会話レッスンで全員が発話しつつ授業を進めていく。	1前	1	○			○		○		○	
84			○	英検総合対策Ⅱ	英検準二級（４月から９月）	1後	1		○		○		○		○	
85			○	英検総合対策Ⅲ	ホテル概論Ⅰ英検準二級１０月受験（１０月から１１月）	1前	2		○		○		○		○	
86			○	観光英語Ⅰ	英検二級（１月から３月）	1後	2	○			○			○		
87			○	観光英語Ⅱ	観光英語３級１０月受験（基礎期）	1後	2		○		○		○			
88			○	ホテル概論Ⅰ	ホテルの概要を学ぶ	1前	1	○			○		○			
89			○	マナー・プロトコール	就職対策（ＥＳ作成、面接練習）	1前	2	○	△		○		○			
90			○	コミュニケーション基礎	コミュニケーション、マナーの基本的知識を学ぶ	1前	3	○	△		○		○			
91			○	レストラン概論Ⅰ	色彩基礎の知識を活用し、色彩検定３級レベルの知識の定着を図る	1前	2	○	△		○		○			
92			○	レストラン概論Ⅱ	料飲サービスに必要な知識と、基本的なサービス技能を学ぶ	1後	2	○	△		○		○			
93			○	ホテルコミュニケーションⅠ	料飲サービスに必要な知識と、基本的なサービス技能を学ぶ	1前	3	○	△		○		○			
94			○	ホテルコミュニケーションⅡ	ホテルで勤務する際に求められるコミュニケーションを様々なシチュエーションから学ぶ	1後	3	○	△		○		○			
95			○	ホテルキャリアデザインⅠ	ホテルで勤務する際に求められるコミュニケーションを様々なシチュエーションから学ぶ	1前	3	○	△		○		○			

96			○	ホテルキャリアデザインⅡ	ホテル業務上必要な知識、人間関係構築方法などをより細かなシチュエーションから学ぶ	1後	3	○	△		○		○		
97			○	ミクロ経済学	本授業の目的は、経済学における基礎科目として、市場を分析し、役割を理解することを目的とする。具体的には、消費者行動、生産者行動等のミクロ経済学理論を体系的に学び、現実の経済の問題と関連させながら学ぶことにある。	1後	1	○	△		○		○		
98			○	マクロ経済学	本授業の目的は、経済学における基礎科目として、国全体の経済を分析するマクロ経済学の基礎理論を学習することにある 。具体的には、各種指標、とりわけ GDPの決定メカニズム、経済成長、景気変動等の基礎的内容からマクロ経済学派の思考を学修する。	1後	1	○	△		○		○		
99			○	財務会計基礎	本授業の目的は、主に企業会計で使われるもので、企業における事業活動の結果を反映する会計情報を外部の利害関係者に報告するための会計として、まずは、会計原則並びに理論を学び、それらの役割を理解するとともに、貸借対照表に関する内容を学修することにある。	1前	2	○	△		○		○		
100			○	競争戦略論	本授業の目的は、競合企業に対して持続的な競争優位性を確立するための戦略である競争戦略に焦点を当て、競争戦略の基礎理論やフレームワーク、企業間競争における戦略の分析までを確認し、体系的な理解を得るとともに、実際の経営現象に当てはめて思考することで、実践的な知識の修得を図ることにある。	1又2後	2	○	△		○		○		
101			○	国際経営論	本授業の目的は、まずは国際経営の歴史的展開を学び、多国籍企業における組織と戦略並びに実態を理解することにある。そして、国際的に広がった企業の活動は、いかに組織・運営され、いかに文化や歴史的背景を異にする国と地域に販売・生産・研究開発拠点を配置するのか等の固有の問題についても学修していく。	1又2後	2	○	△		○		○		
102			○	ブランドマネジメント論	本授業の目的は、ブランド戦略を立案・構築するために必要となる理論的観点からの枠組みを理解することにある。具体的には、ブランド戦略と価値創造、ブランド要素戦略、ブランドと経験価値等を体系的に理解していくことで 、ブランド構築が競争優位持続化の手段としていかに重要であるかを学修していく。	1又2後	2	○	△		○		○		
103			○	金融論	本授業の目的は、証券化や投資信託、直接型・間接型の金融商品等の難解な現代における金融の仕組みを理解した上で、金融機関の意義、金融政策、金融規制等の政策のあり方を学修することにある。	1又2通	2	○	△		○		○		

104			○	流通システム論	本授業の目的は、小売業、卸売業等の流通システムを構成する各種企業の活動について、具体的事例を踏まえながら、その流通システムの構造と発展に係る理論的体系を学修することにある。	1又2前	2	○	△		○		○		
105			○	マーケティング論	本授業の目的は、マーケティングの基礎を体系的に学修するとともに、具体的な企業のマーケティング戦略事例に触れながら、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、外部環境分析・内部環境分析、マーケティング・ミックス等に関する理解を深めていき、実務で利活用できることにある。	1又2後	2	○	△		○		○		
106			○	イノベーション論	本授業の目的は、イノベーションとはどのようなもので、企業経営においてどのような役割を果たすのかということを、新製品開発や組織、経営戦略、製品アーキテクチャ、価値創造等の多角的視点から理解し、理論的に思考できることにある。	1又2後	2	○	△		○		○		
107			○	経営管理論	本授業の目的は、 経営管理に必要となる知識や理論等を体系的に理解することにある。具体的には、生産性と創造性の探求理論としての経営管理論という観点を前提に、組織デザインや経営戦略、資源の管理等の環境適応に関する管理、さらには、経営のリーダーシップや組織の活性化、企業文化の創造と変革等の変革の管理について体系的に理解した上で、現代の日本における経営管理のあり方等を学修する。	1又2後	2	○	△		○		○		
108			○	経営組織論	本授業の目的は、経営組織論の概念のもと、組織とは何かという視点に始まり、基礎理論、組織構造とデザイン、内部組織のマネジメント、外部環境との関係性から組織の戦略を考えていく等の考え方を体系的に理解するとともに、組織の変革の捉え方や進め方等も学修していくことにある。	1又2後	2	○	△		○		○		
109			○	消費者行動論	本授業の目的は、 消費者の多様性を理解した上で、消費者心理と行動における基本的な理論や枠組みについて、体系的な知識を修得することにある。具体的には、購買動機、ブランド選択等のマーケティングを行うにあたって不可欠となる消費者の行動分析について、戦略的アプローチのみならず、心理学的アプローチを含めて学修をしていく。	1又2後	2	○	△		○		○		
110			○	現代商品論	本授業の目的は、商品論（商品学）とは何かを考察した上で、現代における商品の意義や特徴について学修することにある。具体的には、モノ型商品とサービス型商品という商品の概念を明らかにし、現代商品における特性、品質構造、価格、標準化競争、商品のコモディティ化等を体系的に理解することを目的とする。	1又2通	2	○	△		○		○		○
111			○	経営学史	本授業の目的は、 経営学の系譜を考える上で、歴史的に重要性が高いものと位置付けられる主要な経営学説について、その時代背景とともに生み出された問題意識に着眼点を置きながら理解をしていくことで、 現代の企業経営における課題を解決するための技法を得ることにある。	1又2通	2	○	△		○		○		

112			○	財務諸表論	本授業の目的は、企業外部の利害関係者に対して、企業の財務状況や経営状況を報告するために行われるという観点から、経済社会において重要な情報源であるという財務会計について、財務諸表 （貸借対照表、損益及び包括利益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュフロー計算書）を通して、企業の経営状況や会計の枠組み等を理解することにある。	1又2後	2	○	△		○		○		
113			○	統計分析入門	本授業の目的は、企業価値向上に繋げるべく、リスク管理としてのリスクの計量化を図ったり、各種戦略の策定を適切に行うにあたっては、データに基づいた客観的な意思決定をする必要がある等の状況を踏まえ、統計学の基本的理論を用いてデータ整理から要約、さらにはデータ傾向の抽出を行うといった一連の統計分析手法を学修することにある。	1又2前	2	○	△		○		○		
114			○	ＡＩ・データサイエンス基礎理論	本授業の目的は、大量のデータから有益な情報、法則、知見等を導き出すための手法であるデータサイエンスの基礎知識や理論、技能の修得をすることにある。具体的には、データ取得と管理、散布図や相関係数等のデータ分析の基礎、クロス集計や回帰分析等のデータサイエンス手法、さらには、機械学習と AI(人工知能)等を学修する。	1又2前	2	○	△		○		○		
115			○	産業システム論	本授業の目的は、経済学理論を応用して、企業における意思決定や産業構造に関する考察方法を理解することにある。具体的には、ミクロ経済学を個別市場や産業に応用して、消費者並びに生産者の行動を分析する学問分野であり、社会全体で考えた場合に、製品開発、生産、販売等が望ましい状況下にあるのかを評価するための基礎理論を学修する。	1又2通	2	○	△		○		○		○
116			○	ビジネスデータ分析	本授業の目的は、統計学の理論と統計手法の基礎を修得し、マーケティングの分野で統計学をどのように活用できるかを理解することにある。実際に、統計ソフトRを利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身に付けることにある。	1又2前	2	○	△		○		○		
117			○	経営情報論	本授業の目的は、経営学の視点からDX、ICT、ビッグデータ等の技術革新が企業経営にどのような影響を及ぼしているのか、そして、どのように活用されているのかという点を理論と実際の双方から学修することにある。	1又2前	2	○	△		○		○		
118			○	リーダーシップ論	本授業の目的は、既存のリーダーシップ研究に基づいた様々なアプローチ手法を理解し、リーダーシップの基本的な知識を修得することにある 。複雑かつ多様性が重視される環境下において、リーダーシップの重要性はさらに高まってきており、取るべきリーダーシップの手法も変化してきていることから、根本の部分にある「リーダーシップとは何か」ということについて、成長発達理論等を根拠に理解していく。	1又2通	2	○	△		○		○		

119			○	企業倫理と社会的責任	本授業の目的は、企業経営における規律性と適正性を確保するための仕組みであるコーポレートガバナンスを学修する。具体的には、いかに企業不祥事を防止し、企業価値を高め、内部・外部における多数のステークホルダーとの関係を保持し、経営の発展を実現させ、管理していくか等をグローバルな視点や実務の観点を取り入れながら、体系的な理論と知識を修得することにある。	1又2通	2	○	△		○		○		○
120			○	マーケティング調査	本授業の目的は、市場分析やセグメンテーション等のマーケティング戦略を策定することができるようになるために、マーケティング調査の基本的意義から、調査課題の設定、質問紙の作成、データ収集、データ分析、報告書の作成の一連の調査過程を体系的かつ実践的に学修をすることによって、マーケティング調査に関する深い理解を得ることにある。	1又2通	2	○	△		○		○		
121			○	デジタルマーケティング	本授業の目的は、SNS やインターネット広告等のデジタル技術を活用したデジタルマーケティングの基礎となる理論や概念、戦略、マネジメントを体系的に学修し、特に、企業がインターネット上で実施するマーケティングについて、消費者行動の視点から分析・検討を進めることで、デジタルマーケティングの理解を深めていくことにある。	1又2通	2	○	△		○		○		
122			○	FP基礎	小売業について体系的に学び、実務的なビジネスの知識を理解する	2前	5	○	△		○		○		
123			○	FP応用	日常生活に関わる様々なお金の知識を身につける	2前	3		○		○		○		
124			○	FP総合	日常生活に関わる様々なお金の知識を身につける	2前	4		○		○		○		
125			○	販売知識基礎	ホテル業務上必要な知識、人間関係構築方法などをより細かなシチュエーションから学ぶ	2通	3	○			○		○		
126			○	販売知識応用	仕入れ在庫管理・接客マナー・企画立案、マネジメントの知識を理解する	2後	3	○	△		○		○		
127			○	ITパスポート基礎	「お金」に関する総合的な知識を深め、経済社会との関係性を理解する	2通	4	○			○		○		
128			○	ITパスポート・リテラシ演習	情報技術の基礎となる考え方・仕組み・専門用語を理解する	2後	1		○		○		○		
129			○	ITパスポート応用	情報技術の考え方・仕組み・専門用語を問題演習を通じて学ぶ	2後	1	△	○		○		○		
130			○	給与計算実務	所得税・住民税の基礎知識を体系的に理解し、特に年末調整事務に必要な知識を習得する講義	2後	2	○	△		○		○		

131			○	会社経理実務	経理実務で必要となる業務内容を体系的に学び、特に納税等で用いる帳票書類についての知識を習得するための講義	2通	2	○	△		○		○		
132			○	財務会計	企業内で必要とされる接遇に関する基本的なルールの学習をする	2後	2	○	△		○		○		
133			○	経営常識	基礎レベルではやや難しい情報技術の考え方をを問題演習を通じて学ぶ	2後	1	○	△		○		○		
134			○	接遇ビジネスマナー	日常生活や仕事に役立つ用語、事例学習	2通	1			○	○		○		
135			○	販売仕入管理	財務諸表の作成に関する知識と技術を身につけ、財務会計の意義や制度についての理解を深めるための講義	2通	1	○			○		○		
136			○	マーケティング概要	中国人ネイティブ講師による講義	2通	1	○			○		○		
137			○	マーケティング概論	企画から発表までの一連の流れ	2後	2	○	△		○		○		○
138			○	販売職ビジネスマナー	マーケティングの必要性と目的を学習する	2後	3			○	○		○		
139			○	プレゼンテーション	接客に関する実践的な学習をする	2後	1			○	○		○		
140			○	卒業研究・発表	マーケティングの必要性と目的を学習する	2後	2		○		○		○		○
141			○	ホテル実務Ⅲ	ホテルの会計業務知識の基礎および演習	2前	1		○		○		○		
142			○	ホテル実務Ⅳ	ホテルの基本、宿泊部門の業務、料飲部門の業務について学ぶ	2後	1	○			○		○		
143			○	ホテル実践Ⅰ	旅行会社のカウンターにおける知識、ビジネスマナーを学ぶ	2前	1		○		○		○		
144			○	ホテル実践Ⅱ	ホテル接客の基礎知識および接客技術の演習	2前	1		○		○		○		
145			○	ホテル実践Ⅲ	料飲部門の基礎知識および料飲サービス技術の演習	2前	1		○		○		○		
146			○	ホテル実践Ⅳ	宿泊部門の基礎知識および客室、フロント業務の演習	2前	1		○		○		○		

147			○	宿泊プランニング	宴会部門、調理部門、マーケティング部門の業務について学ぶ	2後	2		○		○		○			
148			○	ホテルマーケティング応用	ホテルマーケティングの知識を基に、宿泊プランを考える	2後	1	○			○		○			
149			○	ホテルビジネスマナー	PCPホテルマーケティング	2後	1		○		○		○			
150			○	ホテルフロント実習	ホテルスタッフとしてのビジネスマナーを学ぶ	2後	1			○	○		○			
151			○	言語知識（英会話）Ⅲ	ホテルコンシェルジュの学習	2前	2		○		○			○	○	
152			○	言語知識（英会話）Ⅳ	ネイティブスピーカーとの英会話レッスンで全員が発話しつつ授業を進めていく。	2後	2		○		○			○	○	
153			○	英検総合対策Ⅳ	ネイティブスピーカーとの英会話レッスンで全員が発話しつつ授業を進めていく。	2後	1		○		○		○			
154			○	マナー・プロトコール応用	TOEIC（１０月から１１月）	2前	2		○		○		○			
155			○	マーケティング概論	企画から発表までの一連の流れ	2後	1	○			○		○			○
156			○	プレゼンテーションテーション概論	マーケティングの必要性と目的を学習する	2後	1		○		○		○			
157			○	時事研究	企画から発表までの一連の流れ	2後	1	○			○			○		
158			○	ホテル概論Ⅱ	ホテル業界の概要を学ぶ	2後	1	○			○			○		
159			○	レストラン概論Ⅲ	カウンター職に就いた時の即戦力およびサービス接遇の習得	2前	3	○	△		○		○			
160			○	レストラン実務	料飲サービスに必要な知識と、基本的なサービス技能を学ぶ	2前	4		○		○		○			
161			○	ホテルコミュニケーションⅢ	レストランのサービス技術を学ぶ	2前	1	○	△		○		○			
162			○	ホテルコミュニケーションⅣ	ホテルで勤務する際に求められるコミュニケーションを様々なシチュエーションから学ぶ	2後	1	○	△		○		○			

163			○	ホテルキャリアデザインⅢ	ホテルで勤務する際に求められるコミュニケーションを様々なシチュエーションから学ぶ	2前	1	○	△		○		○			
164			○	ホテルキャリアデザインⅣ	ホテル業務上必要な知識、人間関係構築方法などをより細かなシチュエーションから学ぶ	2後	1	○	△		○		○			
165			○	テーマパークホテル研究	講義と実演で段階的に習得する	2後	1		○		○		○			
166			○	基礎数的Ⅰ数的推理	ホテル業務上必要な知識、人間関係構築方法などをより細かなシチュエーションから学ぶ	2前	2	○			○		○			
167			○	基礎数的Ⅱ判断推理	数学的な基礎知識を基に、文章問題を解答する	2前	2	○			○		○			
168			○	実践数的空間把握	数学的な基礎知識及び論理的な思考を基に、文章問題を解答する	2前	1	○			○		○			
169			○	基礎社会科学Ⅰ　政治	数学的な基礎知識や空間把握能力を基に、問題を解答する	2前	2	○			○		○			
170			○	基礎社会科学Ⅱ　経済・社会	基本的人権や統治機構など憲法の基礎知識を学ぶ	2前	2	○			○		○			
171			○	基礎言語Ⅰ文理・国語	金融政策・財政政策・外国為替など、経済の基礎知識、労働問題・環境問題など、社会の基礎知識を学ぶ	2前	1	○			○		○			
172			○	実践答案練習Ⅰ	文法などの国語分野の基礎的な知識と文章読解力の習得	2前	2		○		○		○			
173			○	直前答案練習Ⅰ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2前	6		○		○		○			
174			○	公務員時事対策	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2前	1	○			○		○			
175			○	実践数的数的総合	自然科学から国際問題まで幅広いジャンルの社会時事を学ぶ	2前	2		○		○		○			
176			○	実践人文科学Ⅰ　地理	数学的な基礎知識を基に、文章問題を解答する	2前	1	○			○		○			
177			○	実践人文科学Ⅱ　日本史	気候や各国の産業などの基礎知識と本試験レベルの実践的知識を学ぶ	2前	1	○			○		○			
178			○	実践人文科学Ⅲ　世界史	大和政権から昭和までの日本史を学ぶ	2前	1	○			○		○			

179			○	基礎人文科学総合	中国の歴代王朝と、ヨーロッパ世界を中心とした世界の歴史を学ぶ	2前	1	○			○		○			
180			○	実践自然科学Ⅰ　生物・地学	西洋および東洋の倫理や芸術、文学を学ぶ	2前	1	○			○		○			
181			○	実践自然科学Ⅱ　物理・化学	生体から自然環境までの生物分野、地球の内部構造から宇宙までの地学分野を学ぶ	2前	1	○			○		○			
182			○	応用演習数的処理本試験対策	物理分野は基本的な公式を覚え、運動・熱・電気などの仕組みを学び、化学分野は物質の仕組みや物質の変化を学ぶ	2前	1		○		○		○			
183			○	応用演習知識系科目本試験対策	数的分野全般について、更なる問題演習による試験直前の応用力強化	2前	1		○		○		○			
184			○	応用演習教養科目総合	教養科目全般の総合的な知識を、問題演習を通じて得点力強化	2通	1		○		○		○			
185			○	公務員就職試験数理分野対策Ⅱ	多様化する公務員試験に対応するための一般教養力の習得	2前	1		○		○		○			

186			○	基礎自然科学総合	多様化する公務員試験に対応するための一般教養力の習得	2前	1	○			○		○			
187			○	実践答案練習Ⅱ	物理・化学の基礎知識を習得する。	2前	3		○		○		○			
188			○	直前答案練習Ⅱ	模擬試験を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2前	4		○		○		○			
189			○	直前答案練習Ⅲ	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2後	1		○		○		○			
190			○	公務員時事研究	模擬試験と解説を通じ、復習および実践的な知識を学ぶ	2通	2		○		○		○			
191			○	公務員キャリアデザイン基礎	漢字の学習を通じ、ことわざや故事成語など国語分野に関する知識まで身につける	2通	3		○		○		○			
192			○	公務員キャリアデザイン　公務員春試験	公務員春試験の二次試験を踏まえた実践的な面接の練習	2前	1		○		○		○			
193			○	公務員キャリアデザイン　公務員秋試験	公務員春試験の二次試験を踏まえた実践的な面接の練習	2後	2		○		○		○			
194			○	公務員適性検査演習Ⅰ	効果測定を通して面接の基礎を修得し、7試験種に向けた面接指導を行う	2前	2		○		○		○			
195			○	公務員適性検査演習Ⅱ	公務員試験で重視される事務適性試験の得点力を強化する	2前	1		○		○		○			
196			○	公務員教養論作文対策	公務員試験で重視される事務適性試験の得点力を強化する	2前	1		○		○		○			
197			○	トレーニング実習	公務員教養論作文試験対策のレクチャーおよび実践練習を行う	2前	1			○	○		○		○	○
198			○	職業実務Ⅰ	トレーニング関連の講義から得た知識を活かした実習を行う	2後	1		○		○		○		○	○
199			○	職業実務Ⅱ	官公庁（防衛省自衛隊）から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に官庁企業研究を行う	2後	1		○		○		○			

200			○	職業実務Ⅲ	京都府行政書士会から講師をお招きし、行政書士資格についての説明を聞いた上、官公庁がどのように行政書士の方と交流があるかを理解する	2後	1		○		○		○		○
201			○	職業実務Ⅳ	官公庁から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に官庁企業研究を行う	2後	1		○		○		○		○
202			○	職業実務Ⅴ	官公庁から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に官庁企業研究を行う	2後	1		○		○		○		
203			○	公官庁講話	官公庁から講師をお招きし、その講義から得た知識を基に官庁企業研究を行う	2前	1	○			○		○		
204			○	公務員倫理	現役公務員の様々な職種の方の講話を聴き職種への理解を深める	2後	1		○		○		○		○
205			○	公共ボランティア実習Ⅰ	講義をもとに、各自研究課題を作成する	2通	1			○	○		○		
206			○	公共ボランティア実習Ⅱ	ボランティアの基本的な在り方を学び、実習も踏まえて理解を深める	2通	1			○	○		○		
207			○	法律研究	ボランティアの基本的な在り方を学び、実習も踏まえて理解を深める	2後	1		○		○		○		○
208			○	行政研究	身近な法律に関する講義を受け、研究および発表を通じて法律の考え方を学ぶ	2後	1		○		○		○		○
209			○	競争戦略論	本授業の目的は、競合企業に対して持続的な競争優位性を確立するための戦略である競争戦略に焦点を当て、競争戦略の基礎理論やフレームワーク、企業間競争における戦略の分析までを確認し、体系的な理解を得るとともに、実際の経営現象に当てはめて思考することで、実践的な知識の修得を図ることにある。	1・2後	2	○	△		○		○		
210			○	国際経営論	本授業の目的は、まずは国際経営の歴史的展開を学び、多国籍企業における組織と戦略並びに実態を理解することにある。そして、国際的に広がった企業の活動は、いかに組織・運営され、いかに文化や歴史的背景を異にする国と地域に販売・生産・研究開発拠点を配置するのか等の固有の問題についても学修していく。	1・2後	2	○	△		○		○		
211			○	ブランドマネジメント論	本授業の目的は、ブランド戦略を立案・構築するために必要となる理論的観点からの枠組みを理解することにある。具体的には、ブランド戦略と価値創造、ブランド要素戦略、ブランドと経験価値等を体系的に理解していくことで 、ブランド構築が競争優位持続化の手段としていかに重要であるかを学修していく。	1・2後	2	○	△		○		○		

212			○	金融論	本授業の目的は、証券化や投資信託、直接型・間接型の金融商品等の難解な現代における金融の仕組みを理解した上で、金融機関の意義、金融政策、金融規制等の政策のあり方を学修することにある。	1・2通	2	○	△		○		○		
213			○	流通システム論	本授業の目的は、小売業、卸売業等の流通システムを構成する各種企業の活動について、具体的事例を踏まえながら、その流通システムの構造と発展に係る理論的体系を学修することにある。	1・2前	2	○	△		○		○		

214			○	マーケティング論	本授業の目的は、マーケティングの基礎を体系的に学修するとともに、具体的な企業のマーケティング戦略事例に触れながら、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、外部環境分析・内部環境分析、マーケティング・ミックス等に関する理解を深めていき、実務で利活用できることにある。	1・2後	2	○	△		○		○		
215			○	イノベーション論	本授業の目的は、イノベーションとはどのようなもので、企業経営においてどのような役割を果たすのかということを、新製品開発や組織、経営戦略、製品アーキテクチャ、価値創造等の多角的視点から理解し、理論的に思考できることにある。	1・2後	2	○	△		○		○		
216			○	経営管理論	本授業の目的は、 経営管理に必要となる知識や理論等を体系的に理解することにある。具体的には、生産性と創造性の探求理論としての経営管理論という観点を前提に、組織デザインや経営戦略、資源の管理等の環境適応に関する管理、さらには、経営のリーダーシップや組織の活性化、企業文化の創造と変革等の変革の管理について体系的に理解した上で、現代の日本における経営管理のあり方等を学修する。	1・2後	2	○	△		○		○		
217			○	経営組織論	本授業の目的は、経営組織論の概念のもと、組織とは何かという視点に始まり、基礎理論、組織構造とデザイン、内部組織のマネジメント、外部環境との関係性から組織の戦略を考えていく等の考え方を体系的に理解するとともに、組織の変革の捉え方や進め方等も学修していくことにある。	1・2後	2	○	△		○		○		
218			○	消費者行動論	本授業の目的は、 消費者の多様性を理解した上で、消費者心理と行動における基本的な理論や枠組みについて、体系的な知識を修得することにある。具体的には、購買動機、ブランド選択等のマーケティングを行うにあたって不可欠となる消費者の行動分析について、戦略的アプローチのみならず、心理学的アプローチを含めて学修をしていく。	1・2後	2	○	△		○		○		
219			○	現代商品論	本授業の目的は、商品論（商品学）とは何かを考察した上で、現代における商品の意義や特徴について学修することにある。具体的には、モノ型商品とサービス型商品という商品の概念を明らかにし、現代商品における特性、品質構造、価格、標準化競争、商品のコモディティ化等を体系的に理解することを目的とする。	1・2通	2	○	△		○		○		○
220			○	経営学史	本授業の目的は、 経営学の系譜を考える上で、歴史的に重要性が高いものと位置付けられる主要な経営学説について、その時代背景とともに生み出された問題意識に着眼点を置きながら理解をしていくことで、現代の企業経営における課題を解決するための技法を得ることにある。	1・2通	2	○	△		○		○		

221			○	財務諸表論	本授業の目的は、企業外部の利害関係者に対して、企業の財務状況や経営状況を報告するために行われるという観点から、経済社会において重要な情報源であるという財務会計について、財務諸表 （貸借対照表、損益及び包括利益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュフロー計算書）を通して、企業の経営状況や会計の枠組み等を理解することにある。	１・２後	2	○	△		○		○		
222			○	統計分析入門	本授業の目的は、企業価値向上に繋げるべく、リスク管理としてのリスクの計量化を図ったり、各種戦略の策定を適切に行うにあたっては、データに基づいた客観的な意思決定をする必要がある等の状況を踏まえ、統計学の基本的理論を用いてデータ整理から要約、さらにはデータ傾向の抽出を行うといった一連の統計分析手法を学修することにある。	１・２前	2	○	△		○		○		
223			○	ＡＩ・データサイエンス基礎理論	本授業の目的は、大量のデータから有益な情報、法則、知見等を導き出すための手法であるデータサイエンスの基礎知識や理論、技能の修得をすることにある。具体的には、データ取得と管理、散布図や相関係数等のデータ分析の基礎、クロス集計や回帰分析等のデータサイエンス手法、さらには、機械学習と AI(人工知能)等を学修する。	１・２前	2	○	△		○		○		
224			○	産業システム論	本授業の目的は、経済学理論を応用して、企業における意思決定や産業構造に関する考察方法を理解することにある。具体的には、ミクロ経済学を個別市場や産業に応用して、消費者並びに生産者の行動を分析する学問分野であり、社会全体で考えた場合に、製品開発、生産、販売等が望ましい状況下にあるのかを評価するための基礎理論を学修する。	１・２通	2	○	△		○		○		○
225			○	ビジネスデータ分析	本授業の目的は、統計学の理論と統計手法の基礎を修得し、マーケティングの分野で統計学をどのように活用できるかを理解することにある。実際に、統計ソフトRを利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身に付けることにある。	１・２前	2	○	△		○		○		
226			○	経営情報論	本授業の目的は、経営学の視点からDX、ICT、ビッグデータ等の技術革新が企業経営にどのような影響を及ぼしているのか、そして、どのように活用されているのかという点を理論と実際の双方から学修することにある。	１・２前	2	○	△		○		○		
227			○	リーダーシップ論	本授業の目的は、既存のリーダーシップ研究に基づいた様々なアプローチ手法を理解し、リーダーシップの基本的な知識を修得することにある 。複雑かつ多様性が重視される環境下において、リーダーシップの重要性はさらに高まってきており、取るべきリーダーシップの手法も変化してきていることから、根本の部分にある「リーダーシップとは何か」ということについて、成長発達理論等を根拠に理解していく。	１・２通	2	○	△		○		○		

228			○	企業倫理と社会的責任	本授業の目的は、企業経営における規律性と適正性を確保するための仕組みであるコーポレートガバナンスを学修する。具体的には、いかに企業不祥事を防止し、企業価値を高め、内部・外部における多数のステークホルダーとの関係を保持し、経営の発展を実現させ、管理していくか等をグローバルな視点や実務の観点を取り入れながら、体系的な理論と知識を修得することにある。	1・2通	2	○	△		○		○		○
229			○	マーケティング調査	本授業の目的は、市場分析やセグメンテーション等のマーケティング戦略を策定することができるようになるために、マーケティング調査の基本的意義から、調査課題の設定、質問紙の作成、データ収集、データ分析、報告書の作成の一連の調査過程を体系的かつ実践的に学修をすることによって、マーケティング調査に関する深い理解を得ることにある。	1・2通	2	○	△		○		○		
230			○	デジタルマーケティング	本授業の目的は、SNS やインターネット広告等のデジタル技術を活用したデジタルマーケティングの基礎となる理論や概念、戦略、マネジメントを体系的に学修し、特に、企業がインターネット上で実施するマーケティングについて、消費者行動の視点から分析・検討を進めることで、デジタルマーケティングの理解を深めていくことにある。	1・2通	2	○	△		○		○		
231			○	卒業論文Ⅰ	本授業の目的は、卒業論文の制作のための研究テーマの設定方法、実行可能な研究計画の立て方、適切な調査・研究方法を順次確認しながら作業と考察を進め、構想・準備を行い、論文の執筆、完成に至るまでのスキルを修得することにある。本授業(卒業論文Ⅰ)では、論題設定の動機・内容・構成・参考文献などを具体的に提示し、それに対して、担当教員が助言等を行う。	2通	2	○	△		○		○		
232			○	卒業論文Ⅱ	本授業の目的は、卒業論文の制作のための研究テーマの設定方法、実行可能な研究計画の立て方、適切な調査・研究方法を順次確認しながら作業と考察を進め、構想・準備を行い、論文の執筆、完成に至るまでのスキルを修得することにある。本授業(卒業論文Ⅱ)では、自身が設定したテーマの下、研究計画書及び論文要旨を参考にしながら、実際の論文執筆から、完成・提出・評価までの内容となる。	2通	2	△	○		○		○		
233			○	中小企業論	本授業の目的は、第一次産業を除く日本企業の99%超を占める中小企業の日本経済社会における重要基盤としての役割や雇用の創出、資金的・物的・人的支援を通じた地域社会への貢献等を踏まえるとともに、企業存立や中小企業政策、現代の中小企業の課題等を考察しながら学習をしていくことにある。	2前	4	○	△		○		○		

234			○	経営分析論	本授業の目的は、財務諸表・各種数量等の定量的情報や業界での地位・業種の状況等の定量的情報を基に、算定された経営指標等によって、企業の経営状態や課題を抽出し、経済的意思決定を行うことができるようになることにある。具体的には、財務諸表分析の手法である安定性分析、収益性分析、生産性分析、成長性分析等が挙げられる。	2通	4	○	△		○		○		
235			○	組織行動論	本授業の目的は、組織行動における基礎概念を確認した上で、組織を一定の共通目的を持った複数の個人から構成される集団と捉えて理解を深めていくことで、組織や人材マネジメントにおいて必要となる判断力等を身に付けることにある。具体的には、個人と組織の両視点から、組織内の人間の心理や行動について考察し、モチベーション論やリーダーシップ論等を根拠にしながら、組織の中の人間をどのようにマネジメントしていくかを理解していく。	2通	2	○	△		○		○		
236			○	生産管理論	本授業の目的は、現代の生産管理において重要な要素である Quality(品質)、Cost(コスト)、Delivery(納期)について、バランスを考えながら利益や顧客満足度、企業価値の向上を図るべく、競争力の視点から生産管理における基本的知識と理論体系を学修することにある。	2通	2	○	△		○		○		
237			○	戦略的行動論	本授業の目的は、ゲーム理論における数多くのケースに触れ、さらには、その応用モデルについて、分析し、解釈できるようになることで、企業間のライバル競争等で見られる戦略的行動を理論的に理解できるようになることにある。	2通	2	○	△		○		○		
238			○	リスクマネジメント論	本授業の目的は、リスクマネジメントの基本理論として、基本的なスキームやリスクの特定、リスク分析評価、リスクコントロールとリスクファイナンスを理解するとともに、企業が有するリスク評価と決定に関する重要な要素について理解をすることで、経営戦略リスクマネジメントの実践的な展開方法を修得することにある。	2通	2	○	△		○		○		
239			○	経済学応用	本授業の目的は、経営者への適切なインセンティブづけ、従業員のインセンティブを考慮した組織のデザイン等の情報とインセンティブにまつわる諸問題を経済学の視点で考察し理解することにある。具体的には、インセンティブの経済学や契約理論が扱うモラルハザード、アドバース・セレクション、コミットメントの問題等を中心に学修する。	2通	2	○	△		○		○		
240			○	現代会計基準論	本授業の目的は、世界における会計基準の急速な統一化への動きは、近年の会計をめぐる制度的環境の大きな変化の一因となっていることを踏まえ、国際財務報告基準(IFRS)を巡っての日本国内外の動向を概観していくとともに、日本会計基準の各基準の背景と内容を確認しつつ、その理解を深めることにある。	2通	4	○	△		○		○		

241			○	コストマネジメント論	本授業の目的は、マーケティングの基礎を体系的に学修するとともに、具体的な企業のマーケティング戦略事例に触れながら、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、外部環境分析・内部環境分析、マーケティング・ミックス等に関する理解を深めていき、実務で利活用できることにある。	2通	4	○	△		○		○		
242			○	原価計算論	本授業の目的は、財務諸表作成目的並びに経営管理目的として実施される原価計算において、原価情報等の有用性、それを活用するための知識と知見の修得を目指し、原価計算の一連の計算手続きを理解するとともに、手続きの根拠になる理論を学修することにある。	2通	2	○	△		○		○		
243			○	管理会計論	本授業の目的は、管理会計システムは、組織管理に不可欠な経済的な情報を提供する理論・技術であるところ、戦略や利益計画の作成と実行に管理会計システムを役立てることが可能である旨を理解・学修することにある。そして、管理会計を学修するにあたっては、単なる計算のための手法と捉えるのではなく、実践的に経営管理との関連性を思案しながら学修を進めていくこととする。	2通	2	○	△		○		○		
244			○	意思決定会計論	本授業の目的は、企業の将来の経営方針や財務状況に大きく影響する、非常に重要性の高い意思決定であり、研究開発や設備投資、M&A 等の多額の資金を必要とした長期的・戦略的視点が必要となる戦略的意思決定について、意思決定目的に役立つ会計情報の作り方や使い方について学修することにある。	2通	2	○	△		○		○		
245			○	財務会計応用Ⅰ	本授業の目的は、財務会計における制度や理論、その活用方法を修得することにある。具体的には、基礎概念から個別財務諸表の基本項目について、会計基準等の知識・理解を得るだけではなく、その基盤にある考え方を学修する。	2通	2	○	△		○		○		
246			○	財務会計応用Ⅱ	本授業の目的は、財務会計における制度や理論、その活用方法を修得することにある。具体的には、金融商品、デリバティブ、リース、固定資産の減損、研究開発費・ソフトウェア、退職給付、新株予約権、組織再編、税効果、連結財務諸表等の会計基準等を学修する。	2通	2	○	△		○		○		
247			○	ＩＴリテラシー基礎Ⅰ	本授業の目的は、最も広く使用されているプログラム言語であるC言語を通して、プログラミングの基礎を理解した上で、プログラミングの概念や技法の基本を修得することにある。また、重要なアルゴリズムを題材に、その構造と実現化の方法も学修する。	2通	4	○	△		○		○		
248			○	ＩＴリテラシー基礎Ⅱ	本授業の目的は、人工知能(AI)の開発等のプログラミング言語として広く活用され、機械学習・深層学習アルゴリズムの実装に不可欠なるPythonを用いた基本的なプログラミング技術を修得することにある。	2通	4	○	△		○		○		

249			○	ＩＴリテラシー基礎Ⅲ	本授業の目的は、データベースの仕組みを学修する上で必要となる関係データベースに関する基礎理論、SQL、設計理論等について理解をすることで、データベースの理論と実装を学び、基本的なデータベースの操作方法並びに活用方法について学修することにある。	２通	2	○	△		○		○		
250			○	ＩＴリテラシー基礎Ⅳ	本授業の目的は、基本設計、外部設計、内部設計、プログラム設計、テスト、運用保守等の情報システムの構築に必要となる知識と技術を修得することにある。具体的には、プログラム言語として、Microsoft Excelの機能の1つであるVBA(isual Basic for Application) を学修する。	２通	2	○	△		○		○		
251			○	ＩＴリテラシー応用Ⅰ	本授業の目的は、Microsoft Excelでデータベースを構築するとともに、データ分析を目的とした基本的な技法を実践的かつ具体的に例題を用いて学修することにある。具体的にはMicrosoft ExcelのデータベースファイルにVBAマクロを組み込んだ、高度なデータ分析手法を修得する。	２通	2	○	△		○		○		
252			○	ＩＴリテラシー応用Ⅱ	本授業の目的は、経営情報システムの特性を理解した上で、現状を分析し、システムを再構築することでICTを利活用すべく、そのために必要となる基礎理論から、情報システムの設計や管理、インターネット・ビジネス等を学修することにある。	２通	2	○	△		○		○		
253			○	ＩＴリテラシー応用Ⅲ	本授業の目的は、プログラム言語の中でも、とりわけ広く用いられているJAVA言語における変数・配列・条件分岐・繰り返し等の文法や役割、動作を理解し、実際に使用することで、プログラミング技術の修得をすることにある。	２通	2	○	△		○		○		
254			○	民法Ⅰ（総則・物権）	本授業の目的は、民法総則・物権における条文やその制度趣旨、概念、用語の意味、要件・効果等の基本的事項を確認・理解した上で、判例の見解や学説の動向等も必要に応じて検討することで、市民社会における市民相互間を規律する私法の基礎としての民法について学修することにある。	２通	4	○	△		○		○		
255			○	民法Ⅱ（債権・親族相続）	本授業の目的は、民法債権・親族相続における条文やその制度趣旨、概念、用語の意味、要件・効果等の基本的事項を確認・理解した上で、判例の見解や学説の動向等も必要に応じて検討することで、市民社会における市民相互間を規律する私法の基礎としての民法について学修することにある。	２通	2	○	△		○		○		

256			○	商法総則・商行為法	本授業の目的は、商法総則・商行為法の学修を通して、企業と企業取引に関する特別規定等の理解を深めるとともに、私法における一般法としての民法Ⅰ（総則・物権）、民法Ⅱ（債権・親族相続 ）の学修も併せて行うことで、企業や商取引を取り巻く法制度に係る知識を修得することにある。さらに、商法総則は、企業が市場で公正かつ透明性を持って行動するための指針を提供し、消費者や他の事業者との信頼関係を構築する上で重要な意義をも持つ。そのことから、企業は商法総則に規定する内容を正確に把握し、適切なコンプライアンスプログラムを策定並びに実施することで、リスク管理を強化し、持続可能な経営を目指すことができるという視点を理解することは重要である。	2通	2	○	△		○		○		
257			○	会社法	本授業の目的は、株式会社の設立や運営の方法、また、出資者である株主や会社債権者を保護するために法規制、さらには、企業が法律や規則、倫理規範等に従って行動する等、実践のための重要な基礎的知識や理論及び法体系を学修することにある。具体的には、会社法総則、株式会社の設立、株式、新株予約権、運営面における株主総会、取締役と監査役の役割や責任、コーポレートガバナンスの仕組み等を実務と関連させながら確認することにある。	2通	4	○	△		○		○		
258			○	租税法Ⅰ	本授業の目的は、租税の意義や主たる税目の概観等の体系的かつ基本的事項を学修することで、租税法学の基礎的な思考を身に付けることにある。また、租税法の性質として、経営、経済、会計等の領域にも通じる学問であることから、実務における対応能力を修得することも目的としている。	2通	2	○	△		○		○		
259			○	租税法Ⅱ	本授業の目的は、法人税法における基礎概念や概要、課税上の諸問題等について、実務を遂行していく上で必要となる知識や仕組みを法律の観点から学修することにある。	2通	2	○	△		○		○		
260			○	行政法総論	本授業の目的は、行政法における「法律による行政の原理」等の基本的な原理を理解しつつ、行政行為や行政指導、行政計画、行政契約等の行政の形式に関する概念及び法的規律性について学修をするとともに、情報公開法や行政手続法等に関する法律的枠組みや制度背景を学修することにある。また、行政法は企業が遵守すべき重要な法律の枠組みを提供し、法的リスクの管理において中心的な役割を果たすことから、企業が事業活動を適正に行うためにも、行政法関連法規等の解釈について、判例を題材に理解をすることを目的にする。	2通	2	○	△		○		○		
261			○	国際コミュニケーションⅠ	災害対策に関する講義を受け、研究および発表を通じて防災への理解を深める	1前	3	○	△		○			○	
262			○	国際コミュニケーションⅡ	日本語の言語知識(文字、語彙、文法)を学び、コミュニケーション能力(読解、聴解)を養います。	1後	3	○	△		○			○	

263			○	国際コミュニケーションⅢ	日本語の言語知識(文字、語彙、文法)を学び、コミュニケーション能力(読解、聴解)を養います。	2前	1	○	△		○			○	
264			○	国際コミュニケーションⅣ	日本語の言語知識(文字、語彙、文法)を学び、コミュニケーション能力(読解、聴解)を養います。	2後	2	○	△		○			○	
265			○	ＩＴリテラシ	日本語の言語知識(文字、語彙、文法)を学び、コミュニケーション能力(読解、聴解)を養います。	1後	4	△	○		○		○		
266			○	Excel基礎	社会環境を理解し、課題をクリアする力を身につける為の学習	1後	2	○	△	○	○		○		
267			○	業界・企業研究実践	自分の価値観に合った企業選びができる	1後	1	○	△		○		○		
268			○	Power Point基礎	Excelの基礎操作並びに関数の効果的な使用法を習得する	1通	1	○	△		○		○		
269			○	時事	PCの基礎操作並びにPowerPointの基礎操作を理解する	1後	1	○			○		○		
270			○	Word基礎	Word：長文を効率良く編集するためのスキルを習得する実習	2通	2	○	△		○		○		
271			○	言語知識（中国語）Ⅰ	販売、仕入に関する店舗運営上の管理業務に関する知識を習得する講義	2後	1	○			○			○	
272			○	英会話入門	日常生活での簡単な英会話を事例をもとに学習する	2通	1	○	△		○		○		
273			○	卒業前特別講座	社会人として必要な考え方やスキルを学ぶ	2後	1	○			○		○		
合計					273 科目					517 単位						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	2年限以上在学し、62単位数以上履修し、卒業審査に合格した者について校長が行う。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	第1学年においては、選択必修Aまたは選択必修Bを選択し、選択必修Aを選択した場合は、選択Aまたは選択Bのいずれかを選択し、共通選択を含めて30単位以上を履修するものとする。選択必修Bを選択した場合は選択Cを選択し、25単位以上を履修するものとする。第2学年においては、第1学年で選択Aを選択した場合は選択Dまたは選択Fのいずれかを選択し、第1学年で選択Bを選択した場合は選択Eを選択し、共通選択を含め30単位以上を履修するものとする。第1学年で選択必修Bを選択した場合は、選択Gおよび選1、選2、選3、選4のいずれを選択し、31単位以上を履修するものとする。選択Cおよび選択Gの双方に授業設定がされている科目については、第1学年に履修した場合は、第2学年に履修することはできない。	１学期の授業期間	22 週